第3回 討議セッション(テレワークにおける作業環境(開発、現地))

2020年10月29日、11月25日 開催

今回は、withCOVID をテーマとした 2 回目の討議セッションである。前回と同様に、グラフィックレコーディングをディスカッションの記録として採用している。10 月(テーマ発表と課題の抽出)と 11 月(対応策検討)の 2 回 に分けて実施しした討議セッションの内容を以下に紹介する。

1. 討議テーマの発表

コミュニティ・メンバー2 社から、テレワーク環境における顧客現場対応、および、ネットワーク環境の整備について、課題提起を行った。

「コロナ禍の現場対応について」

(株) シーネット 深沢徹也

発表内容の概要:

システムの開発・導入を行う場合、業務分析、要件定義、ユーザー教育、トラブル対応など、様々な場面で顧客を訪問する。状況によっては、顧客先に常駐して作業する事も多い。また、営業マンは顧客と対面することで顧客との親密な関係を築いてきた。顧客と直接会う事で進めてきた仕事が、コロナの影響でできなくなってしまった。リモートで品質とスピードを落とさず継続できるのか・・・・・その課題と対応策は何か

検討のポイント

- 現場に直接行く事のメリットとリスク、リモート作業のメリットとリスク、また、その使い分
- リモートで対応するための工夫やアイデア
- 現場に行く場合のリスク回避方法

「コロナ禍におけるネットワーク対応」

(株) 中電シーティーアイ 豊田雅信

発表内容の概要:

コロナの影響により、我々の事業環境は急激に変化した。テレワーク社員の増加、リモート会議、クラウド環境の構築など、リモートアクセスへの対応が課題となっている。リモート環境の整備は、セキュリティ対策と同時に行う必要があり、従来の方法だけでは対処できなくなっている。ネットワーク負荷の急増に対応しつつ、セキュリティリスクへの考え方も見直す必要があるのだが・・・・・より具体的で効果のある対応とは何か

検討のポイント

- コロナ禍や事業環境の変化に対してネットワークに求められるニーズや課題、その解決策
- セキュリティに関する考え方・モデルの見直しが必要だと思うが、どんな対処があるのか

2. グループによる課題の整理

発表された課題の説明に対して、3 グループに分かれて討議を行った。今回も、討議内容はグラフィックレコーディングによる記録を採用した。

(1) グループ討議

① 1 グループ 5 名程度を目安として参加メンバーを 3 グループに分割

IT アーキテクトコミュニティ 令和2年度

第3回 討議セッション(テレワークにおける作業環境(開発、現地)) 2020年10月29日、11月25日 開催

- ② 各グループには、記録係としてグラフィックファシリテータ、グラフィックレコーダーが参加
- ③ 各グループは Zoom のブレイクアウトセッション機能で分かれてディスカッションを実施

(2)課題の整理

- ① 上記で説明された2つの発表について問題の本質を議論した。メンバー各社の状況により、発表された内容理解も異なるため、まずはブレーンストーミング的に実施する。
- ② グループで課題に対するメンバーの認識、メンバー各社の状況を発表しながら、課題を整理する。この過程をグラフィックレコーディングしながら、最終的にグループで討議した課題を絞り込んだ。
- ③ グラフィックレコーディングによる記録は、今回で2回目となる。メンバー間の認識の共有、言葉の見える化の効果は高く、有効だと感じる。

(3)課題の発表

グループで討議した意見や経緯、最終的に絞り込んだ課題についてグループの代表が説明する。 説明は、記録されたグラフィックレコードを参照・紹介しながら実施した。

- ① グループ1の課題(現場対応)
 - 今現場で行っている業務のリモート化の工夫、現場に行く場合の工夫
- ② グループ2の課題(現場対応)
 - ビジネスにおける "Face To Face" の価値とテクノロジーによる実現
- ③ グループ3の課題(セキュリティ)
 - ◆ ネットワークのセキュリティ対策(他社事例、及び、可能な範囲での自社事例)

3. グループによる対応策の検討

「課題の整理〜対応策の検討」まで1ヵ月の期間がり、その間メンバーは自分なりの対応策を整理し、討議に参加した。

- (1) グループ 1 の対策案(今現場で行っている業務のリモート化の工夫、現場に行く場合の工夫) 対策としては、リモート作業のための環境整備、セキュリティ対策、3 密回避のための工夫など色々な 対応策が挙げられた。
 - ① リモート環境の整備
 - VPN 装置の増強、モバイルノート PC 購入、書画カメラの導入など、環境を整備
 - ペーパーレス化、業務のワークフロー化、社内システムのモバイル対応(スマホ対応)
 - ② セキュリティ対策
 - 2要素認証のためのスマートデバイス配布
 - テレワーク作業の可視化(個人毎のアプリ利用状況の統計)
 - ③ 作業現場での3密回避
 - 時差出社、フェイスシールド配布、共有備品の廃止(個人配布)
 - 座席の間引き、パーティションの設置
 - 濃厚接触者の監視(ビーコンによる社員の居場所の把握)
- (2) グループ 2 の対策案 (ビジネスにおける "Face To Face" の価値とテクノロジーによる実現)

第3回 討議セッション(テレワークにおける作業環境(開発、現地))

2020年10月29日、11月25日 開催

対面で実施してきた仕事をリモート化するには、既存の考え方(文化・風土)を新しい考え方へ変化させる必要がある。

- ① 試行しながら改善する
 - まずはオンラインで実施してみる。手段(ツール・手法)はダメなら変える
 - 情報にアンテナを張り、色々な手段(ツール・方法)を取り入れてみる
 - オンラインでの成功事例を共有する。ツールや手法を紹介する
 - リモートの不利を克服すべく可視化に優れた要件定義手法 RDRA の活用する
- ② 組織・風十
 - ティール型組織への取り組み(情報共有・権限移譲・価値観の共有)
 - リモートで従来と同じ価値を生むには時間がかかるが、工夫しながら継続してみる
- (3) グループ 3 の対策案 (ネットワークのセキュリティ対策事例)

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、パスワード管理、アクセス制御、クラウド化対応など幅広く話題となったが、各社の機密上の問題もあり、詳細は割愛する。

- ① アクセスの保護と管理
 - IDaaS 導入(Azure AD, Okta など)による認証セキュリティ強化(多要素認証など)を含む セキュリティの底上げやパートナーとの ID 連携
 - Azure AD を利用する場合、セキュリティ管理上、ドメインの乱立、分離や統合など、難しい 面も多い
 - AWS による Amazon Workspace など、クラウド環境の利用
 - クラウド環境の利用で速度低下等もあり、1 部セキュリティルールの緩和も実施
- ② セキュリティ対策の新しい試み
 - ゼロトラストネットワークを試行・評価中
 - CIS ベンチマークおよび対応ツールの活用
 - 組織単位、全社統一、企業グループ統一など、対応する範囲により対応策が異なる

コロナによりテレワークが急速に普及した。企業はネットワーク環境を増強し、リモート化への対応を急いでいる。クラウドへの移行、社内業務のペーパーレス化などを進める中で、セキュリティへの対応も同時に実施しなければならない。現在起きている変化は、将来コロナが収束しても継続する可能性が高く、IT 活用におけるアーキテクトの重要性は更に進むと思われる。セキュリティ対応や柔軟な環境変化への対応は必須となる。

情報発信分科会 記

IT アーキテクトコミュニティ 令和2年度

第3回 討議セッション(テレワークにおける作業環境(開発、現地))

2020年10月29日、11月25日 開催

グラフィックレコーディングの例

